

群馬県ってどんなところ？

群馬県には上毛三山などの山々や、尾瀬、利根川などの清流といった豊かな自然、草津や伊香保、水上、四万をはじめ、たくさんの温泉があります。また、上州和牛や下仁田ネギ、しいたけなどの豊富な農畜産物や、おっきりこみに代表される粉食文化を誇り、自動車産業や伝統工芸品など、様々な産業も発達しています。

さらに、東国文化の中心地として栄えた証として、古墳や遺跡などもたくさんあり、古くから受け継がれてきた文化が根付いています。

「ぐんまがいちばん！」はじめに より引用



紋章

中心に群馬県の「群」の古字を置いています。古字とは、昔使われていて、今は使っていない文字のことです。周辺の三角は、「上毛三山」といわれる赤城山・榛名山・妙義山の山の形を表しています。(大正15年10月1日制定)



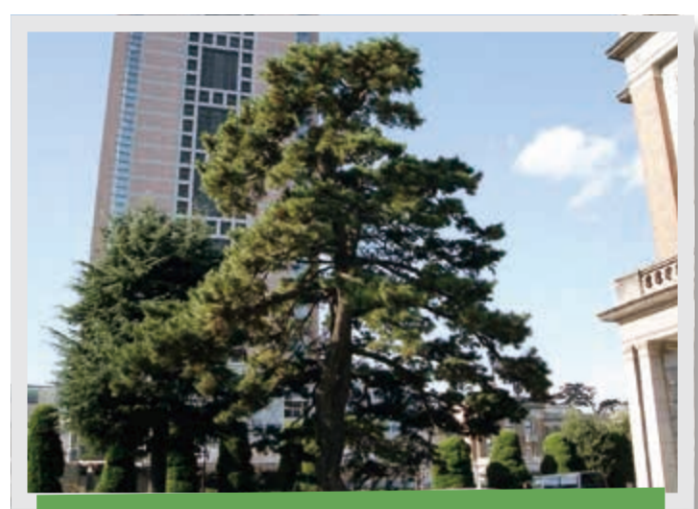
県の花 レンゲツツジ

ツツジの仲間で、5月から7月の初めにかけてオレンジ色の花を咲かせます。赤城山や榛名山、浅間高原、武尊牧場、鹿沢湯の丸牧場などに有名な群生地があります。(昭和26年3月選定)



県の鳥 ヤマドリ

日本だけに住む、キジ科の鳥です。群馬県では、他の県よりも広い範囲に住んでいます。キジよりも一回り大きくて、オスの尾羽がとても長いのが特徴です。(昭和38年4月指定)



県の木 クロマツ

クロマツは、赤城山周辺にたくさん植えられています。海から遠い場所でこれほどたくさん植えられているのは珍しく、群馬県の林業の大きな特色の一つにもなっています。県庁の敷地にも古いクロマツの木があります。(昭和41年10月11日指定)



県の魚 アユ

北海道から九州まで、日本各地の川に住んでいる魚です。県内でもたくさん見られますが、きれいな川にしかいません。背中がオリーブ色、おなかは白色をしていて、川底の石についた藻を食べて大きくなります。(平成元年5月24日指定)



面積・地形

面積は6362.28平方キロメートルで、全国で21番目、関東では栃木県に次いで2番目の大きさです。(平成26年10月1日現在) 地形は、「上毛かるた」に「つる舞う形の群馬県」とうたわれているように、羽を広げたつるの形によく似ています。



気象

南部に平坦地が広がり、西部や北部に山地が多い群馬県では、地域によって気候が異なります。平野部は、太平洋型の気候に加え、内陸であるため、夏はとても暑くなります。強い日差しで温められた空気が山を上がって雷雲となるため、雷が多いことも特徴的です。冬は、「空っ風」という冷たく乾燥した強い季節風が吹きます。山間部では、夏でも涼しい気候を生かして、夏秋キャベツの栽培がさかんです。冬は季節風の影響で、雪がとても多く降ります。

